

第5号刊行によせて

このたび、一橋ローレビュー第5号が刊行される運びとなりました。

本誌は、創刊時の精神に立ち戻り、学生のみなさんの自主性を尊重しつつ、在学中の研究成果を世に問う場を提供することを主な目的として、本年度より不定期刊行の媒体として再出発することになりました。

コンテンツの中心は、修了生及び在学生の研究論文ですが、教員・本学 OBOG のエッセイや編集委員の創意工夫による企画を随時盛り込むことで、一橋大学法科大学院の「いま」の姿を様々な角度から映し出すことができればと考えています。本号では、長年ビジネスロー・コースの教育において多大なご尽力を賜っております射手矢好雄教授のご論考が寄せられています。

学生の直感的な疑問が学術研究の前進に大きく寄与するきっかけになることは、決して少なくありません。一人でも多くの法科大学院生が在学中に、時間をかけて考えるに値する問題を自ら発見し、それを育むことにより、将来法曹として大きく羽ばたくための助走作業にも注力されることを希望します。

本号の刊行においては、但見亮教授、角田美穂子教授、そして修了生の堀田らなさん、保浦誠也さん、在学生の黒澤陸人さん、高木隆文さんがご尽力下さいました。記してお礼申し上げます。

2022年3月

石田剛

(一橋大学法科大学院長)